

今年(うるう)年で、先月末には久々に 29 日を数えました。

地球が太陽の周りをぐるりと回るのに、一年 365 日と 6 時間余り要する、その 6 時間を四年分まとめて一日のプレゼント。「四年に一度しかない珍しい日」位の感覚で、どちらかと言うと「何かするにも、四年に一度になる」と、遠ざかる気持ちが強いのではないですか？皆さんは、どうでした？



この冬位天気が予報と合わなかった事は無かったのでは？

我が家の重機たちは、居場所を造ってもらって、更にはゆっくり出来たのだから、大満足、庭の柿の木も、積み上げた雪の下にならないで助かったと、雪の中から背伸びしている枝が笑っているように見えます。



増え続ける福祉・医療・年金の問題、こういって、医療に関係の人間が何か悪いことをしていると決め付けられるようで嫌なのですが、考えてみてください。様々な治療をしても長いこと治らなかった C 型肝炎は、飲み薬で完治するようになり、肝癌への移行は心配しなくて良い段階に迄なったのです。

一方 B 型肝炎は、来年度つまり四月より一才未満の赤ちゃんにワクチンを投与することで、防げることに為りました。医学は進歩し、誰でも長生きできるようになってきていることを考えれば、経費が増加する事は当然なのです。

役に立つこと、利便なこととその為に使われる費用を坪に掛けて、釣り合いを確かめて頂かないと、いつまでも不審が付きまとうでしょう。

かなり大きな手術や重症の病気でも、2 週間あれば目処が付き、治療方法を決定することが出来るようになり、いわゆる大病院での治療がその 2 週間で間に合うことになりつつあります。

これからの医療は、使い分け、担い分けをきちんとして行けば、まだまだ余裕のある治療に取り掛かれる施設を温存できることになると思われます。

豊かな、有意義な老後を過ごす為にも、限りある様々な資源をより有効に利用して生きる様子をみんなで考えては如何でしょう。

平成 28 年 3 月 院長 清治 邦夫